

7－8					
主題		ヤギの飼育を通じた地域交流			
副題		日本社会事業大学での試み			
キーワード 1	多世代交流	キーワード 2	地域連携	研究(実践)期間	6 ヶ月

法人名	日本社会事業大学	事業所名	多世代交流同好会
発表者（職種）	門脇敏紀（学生）、木下敬登（学生）		
共同研究(実践)者	大平美歌（学生）、石井廣大（学生）、小林広示（学生）、他		

電 話	042-496-3132	FAX	042-496-3132
-----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	日本社会事業大学は、1946 年に厚生労働省（旧厚生省）からの委託を受け、日本初の福祉専門学校として開校した。「福祉のリーダーを養成する」ことを使命とする福祉系大学のモデル校である。社会福祉学部その他、社会人が学ぶ通信教育科や大学院が併設されている。多世代交流同好会には 35 人の学部生が所属している。
-------	--

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

日本社会事業大学では、2023 年度より農作業をツールとした世代間交流活動を実施している。2023 年度は農作業を通じた世代間交流活動に興味を持ってくださった近隣の保育園との連携体制が構築できた。その後、2024 年度 4 月～6 月にかけては高齢者も含めた世代間交流を行うことを目標にして、大学内でのプランターを用いた野菜栽培、ヤギを借りて学内での他学生との交流などを行った。これらの活動の結果、保育園、老人クラブとの交流を深めることができた。また、ゼミナール活動のみで行っていた多世代交流が同好会活動として発足した。

前年度は園芸活動を通じた交流を行った。しかし、定期的に実施する活動ではなかったため、大学と地域の人たち等が連携するに至らなかったことが課題であった。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

本研究では、ヤギには除草目的以外の効果もあることに着目した。ヤギを飼うことにより学生同士や、地域住民とのコミュニケーションの機会が増えた。そこで、ヤギの飼育による交流効果を明らかにすることを目的として、次の 3 点の仮説を立てた。

1. 近隣にヤギがいることに興味を持ち、地域の人々が訪れる。
2. ヤギとの交流を通して、地域に人たちが学生がヤギに愛着を持つ。
3. ヤギを見に来た人たちが自然につながり、ヤギを介して交流するようになる。

《3. 具体的な取り組みの内容》

2024 年 7 月に、ヤギ 2 頭を飼育する計画を立てた。

9 月 21 日に飼育メンバーを募集し、10 月 7 日、10 月 12 日に大学の中庭に面した植え込

みに飼育スペースを作った。10 月 13 日に近隣の NPO 法人メンバーとともに A 県の牧場に同好会顧問と飼育担当リーダーがヤギを引き取りに行った。ヤギの飼育は多世代交流同好会の会員が分担して行った。主に毎日の餌やり、掃除、散歩等がその内容である。

10 月に行われた大学祭では、ヤギの散歩と来場者向けにヤギの名前募集の企画を行った。

《4. 取り組みの結果》

ヤギの飼育を通して、地域の NPO 法人、他県の牧場等の団体と連携を取る体制を構築することができた。

多くの人たちに関心を持ってもらうため、ヤギの名前を公募した。名前募集中というポスターに応募用の QR コードを載せ、大学内やヤギ小屋の前に掲示した。さらに大学祭では、同様の QR コードを載せた、ヤギ紹介チラシを来場者に配布した。その結果、111 件の応募があった。この応募の中から同好会メンバーで名前を 3 案に絞り、最終投票のポスターを作成して、投票を募った。その結果 107 件の投票があり、投票数が最も多かった名前に決定した。

また、ヤギを飼育することによって、次のような効果が確認できた。

- ・大学内の学生や教職員から「癒される」といった声が多く聞かれた。
- ・保育園児や地域の人たちの散歩コースになった。
- ・ヤギを見るために散歩で訪れる近隣の 3 つの保育園との関係性ができた。
- ・学生や教職員が家族を連れて見に来る等、学内関係者を通じてヤギの輪が広がった。

《5. 考察、まとめ》

ヤギの飼育に対して地域の方や大学関係者からの好意的な反応があった。これらの反応から動物の飼育が地域交流の一助となることが考えられる。

今後は、同好会の学生メンバーを中心としたヤギを飼育する活動を安定化させることや、動物を通じた地域交流を効果的に行うために地域の人たちの反応をアンケート等で検証することが必要となると考えられる。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

アンケートに際しては、各団体にアンケートの趣旨や、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないこと等を説明し同意を得ることとする。また、発表の写真の使用に関しても、関係者に事前に了承を得ることとする。

《7. 参考文献》

川添敏弘監著「知りたい！やってみたい！アニマルセラピー」2015, 駿河台出版社
萬田正治「ヤギ：取り入れ方と飼育：乳肉毛皮の利用と除草の効果」2000, 農山漁村文化協会

《8. 提案と発信》

地域のさまざまな人たち・機関・団体の連携のために、高齢者施設等におけるヤギの飼育や園芸活動の導入を提案する。

なお、当該活動は、2024 年 6 月より日本社会事業大学が実施している、農林水産省「令和 6 年度農山漁村振興交付金（都市農業機能発揮対策（都市農業共生推進等地域支援事業）」事業に関連した活動である。